

# 検査官からのメッセージ

## 「検査官の役割」

公認会計士・監査審査会は、公認会計士監査の質の向上を図り、その信頼性を確保することにより、我が国資本市場の公正性と透明性を高めることを使命としています。

公認会計士監査検査官は、当該使命を果たすべく、監査事務所における監査の品質管理が適切に行われているかどうかを確認するため、検査の現場における一番のフロントラインで活躍する役割を担っています。

審査会の検査は、個別の監査意見の適否そのものを主眼とするものではありませんが、監査事務所の監査の品質に関連する管理態勢の適否は、個別の監査業務の実施状況に大きな影響を及ぼしていることから、検査においては、通常、複数の個別監査業務の実施状況の検証も行います。

検査官は、この検証の過程において、企業の営むビジネスの理解やそれに基づく監査リスクの識別・評価、監査リスクへの対応の十分性・適切性などについて、職業的専門家として社会から期待される水準を常に意識しながら、監査チームと膝詰めで協議し、その対応の妥当性を検討します。

我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準は、日本公認会計士協会が公表する監査実務指針を含め、原則を定めたものとなっており、妥当性の検討は多分に判断を要するものであるため、検査官は、監査の専門家である公認会計士を相手にして、正確な事実認識と適切な判断に基づくロジカルな対応を求められることとなります。

また、検査では、個別の監査業務の対応状況を踏まえた上で、監査事務所の監査品質に関する管理態勢や、法人全体の業務管理態勢についての検証を行います。

この検証の過程においては、監査事務所等の経営トップや主要役職者と直接面談することなどにより、時には監査事務所の文化や組織風土、経営トップの経営方針などにも触れながら、監査品質に関する問題点の根本原因の究明を行います。

検査官は、分析の結果認められた根本原因を踏まえ、経営陣が、監査品質の維持・向上について、自発的に実効性のある形で取り組むことを促します。

このように、検査官の役割は、審査会の社会的な使命を果たすため、常に監査業務のあるべき姿を念頭に置き、また、監査事務所の運営にも大きな影響を与えるものであることを考えると、その重責に身が引き締まる思いがする一方、社会的な付託を受けたその責任に見合ったやりがいのある仕事であり、また、再び監査業務に携わる機会がある場合には、短期間で飛躍的に職業的専門家としての能力を高める貴重な経験になると確信しています。

